

「第34回東京都新型コロナウイルス感染症対策本部会議」

令和2年7月15日（水）16時15分
都庁第一本庁舎 7階特別会議室（庁議室）

【危機管理監】

それでは、第34回東京都新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催いたします。

本日は、感染症の専門家の先生といたしまして、東京都医師会副会長の猪口先生、それから国立国際医療研究センター国際感染症センター長の、大曲先生にお越しをいただいております。後程、両先生にご発言をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、資料に従いまして私の方からまず説明をいたします。資料、お手元の資料1枚おめくりください。新型コロナウイルス関連肺炎に関する対応です。

現在の世界の感染者状況ですけれども、1,300万人を超える数の感染者数、57万人を超える死亡者数が発生しております。

国内につきましては2万人を超える感染者、981名の死亡者という状況です。

都につきましては、感染者8189名。昨日の時点での状況になります。資料1枚おめくりいただきまして、国の動きですけれども、特段新しい動きはございません。

資料1枚おめくりいただき都の動きになりますが、先ほど第2回のモニタリング会議を実施しております。都の対応というところです。1枚おめくりいただき、最後のところになります。令和2年度7月の補正予算案を発表したとなっております。それから、専門家による新たなモニタリング項目に基づく分析と評価を、モニタリング会議において本格実施をして、これは本日第2回目となっております。

それでは、A4横のですね、モニタリング分析の結果と書いてあります資料の方をご覧ください。福祉保健局長の方からご説明をお願いいたします。

【福祉保健局長】

新型コロナウイルス感染症に係るモニタリングにあたり専門家の方々からいただいた都内の感染状況及び医療体制に基づいて、ヒアリングの結果が出ております。

1枚目、モニタリング分析結果ということで、新規陽性者数が、先週の約1.5倍に増加し、緊急事態宣言下では最大値に達していることや、接触歴等不明者の増加比が198.2%と約二倍になっていることなどから、4段階のうち最高レベルの、「感染が拡大していると思われる」との総括コメントをいただいております。

また、医療提供体制については、検査の陽性率や重症患者などに基づいて検討していただきましたが、前回に引き続き、3段階の体制の強化が必要であると思われるとのコメントをいただいております。詳細については、先生からコメントいただければと思っております。

【危機管理監】

ありがとうございました。その他、各局長の皆様でご発言ある方いらっしゃいますか。Webexでご参加の局長等の方でご発言ある方いらっしゃいましたらお願いします。

それでは、本日ご参加をいただいている、専門家の先生からご発言をお願いしたいと思います。まず、大曲先生からお願いをいたします。

【大曲先生】

国際医療研究センターの大曲と申します。

私の方から感染状況について、専門家のコメントをご紹介します。

新規陽性者数でありますけれども、参考として、先週の約1.5倍ということでありましてこれは、緊急事態宣言下での最大値に達しているというところでございます。

今回、第一波で参考に申し上げますと、3月から緊急事態宣言の解除までであります、年齢の構成別ですが10歳未満1.3%、10代は1.6%。以降20代17.8%、30代17.8%、40代15.9%、50代は15.5%、ここから少し高めで60代が10.4%。70代で9.6%、80代6.7%、90代3.4%、100歳以上は0.1%という状況でありました。

今回は、少し違っております。7月12日の報告であります、10歳未満は6.8%、10代は3.4%というところで、10歳未満、10代が少し増えております。20代は42.2%、30代は22.3%とこちらかなり高くなっています。40代9.7%、50代4.4%、60代5.3%、70代2.4%、80代が1.0%、90代が2.4%というところであります。

60代以上が全体の約1割を占めております。これまでは、20代30代が中心ということでありましたが60代以上が割合としては高くなっているということと、もう一つは10歳未満の方の陽性者数が増えているというところで、20代30代の方が中心という流行できたわけですが、今回のモニタリングをしますと年齢幅が広がっている、分布が広がっているというところが見て取れます。

感染経路でありますけれども、これまで接待を伴う飲食店が主に取り上げられてきたわけですが、実際に陽性者の事例を見ていきますと、また別の感染経路が見えておりまして、具体的には施設内の感染ですとか同居される家族から、或いは職場での感染、個人での会食です。個人といいますか、私的な会食ですね、劇場等々、多岐にわたっているというところでした。我々が、気にしているのは高齢者への家族内の感染も見られるというところでございます。

地域も広がっております。具体的には、例えば新宿等がよく語られてきたわけですが、それ以外にも中野区、世田谷区、港区、豊島区、そして隣接する板橋区、杉並区、練馬区、渋谷区といった区にも広がっております。60代以上の新規陽性者ですけれども、これは地域に偏りがあるというよりは、ほぼ全域で発生している状況でございます。

施設ですけれども、介護老人保健施設、或いはデイケア施設、幼稚園、保育園、今回これ

が目立ちましたけれども、これも感染が見られておりまして、施設内での感染防止対策の徹底が必要ということを書いております。

2点目は、#7119における発熱等相談件数であります。

この数が増えてきますと、感染拡大の早期の予兆と我々はとらえております。これが2週連続で増加して、7日間移動平均の増加比が1を超えている状況でございます。

3点目は、新規の陽性者における接触歴等の不明者の数、そしてその増加比でございます。不明者数ですけども7日平均で77名を超えまして、先週の2倍となりました。

7月13日時点の新規の陽性者数における接触歴等不明者の増加比は約200%でありまして、加速しております。

この同じペースで増えますと、4週間、例えば接触歴等不明の新規の陽性者の数が、約16倍、計算すると1日あたり1,200人程度発生する、同じ状況でまた増えていきますと、4週継続したところでは、接触歴等不明の新規陽性者数は、 16×16 ということで256倍になるという状況でございます。

今このような状況も踏まえ、しっかりと議論をした上でありますが、今回は、総括としては、感染状況に関しては「感染が拡大していると思われる」ということを我々としては答申をしております。

第一波と、今回の違いというのは、確かに違いはございます。それは、今回が20代30代を中心として若手の若い方が多くて、今のところでありまして、重症者が少ないというところでもあります。そのような違いはありますけれども、感染の拡がりというところでは、申し上げたような評価としております。私からは以上です。

【猪口先生】

続きまして東京都医師会の猪口です。

私の方からは、医療提供体制のモニタリング指標についてコメントさせていただきます。

検査の陽性率ですけども、今現在6.1%まで上がってきています。

検査の陽性率は検査体制の指標として、モニタリングしておりますけれども、検査数が増加しているにもかかわらず、陽性率が高いということで、今後は、さらなる検査体制の強化が必要と考えております。

それから、東京ルールの実用件数ですけども、先週後半に増加の傾向が認められてきておりまして、今後しっかり見ていく必要があるだろうと思っております。

第一波では、疑い患者による東京ルールの実用件数が増加しました。

6月30日から新型コロナ疑いの救急患者の東京ルールを開始いたしましたので、対応策はとっておりますけれども、今後注視していく必要があると思っております。

入院患者でありますけれども、約800名まで増加してきております。

レベル1で、確保した病床では対応できない状況にありまして、7月7日に中等症は、レベル2、重症者は、まだ少ないものですからレベル1の病床確保を行っております。

入院調整本部ですけれども、これは保健所からの入院調整がなかなかうまくいかないときに、都庁の入院調整本部に連絡を受けてやるものですが、件数は、先週と比べ、約3倍になりました。

1件当たりの入院先を探す架電回数は1.8回となって、かなり入院先を探すのに苦労する程度となっております。

現在無症状の患者が18%を占めておりまして、入院というよりは、宿泊療養施設の必要度が増えてきているところでございます。

このまま、先ほどの接触歴等不明の患者さんが、4週間経過すると、1,200人になるという話でしたが、その患者さんは不明率が約50%と仮定すると、その段階でPCR陽性者が、2,400人になります。2,400人のうちの18%で、400人強になりますので、1日当たりの宿泊療養者数が、それぐらいの数になるということが考えられます。

重症患者ですけれども、現在横ばいで、大きく増えておりません。ですが、先ほどの大曲先生のお話があったとおり、陽性者が20代30代を中心としておりますが、これが非常に大きく拡がり、感染者が増えて、年代が高齢者に偏っていくと、50代以降の重症化率は5%から15%。仮に10%ぐらいということになりますと先ほどの感染症の陽性患者から考えますと、1日200人を超えるような重症者が出てくるという話になる。

PCR陽性になってから10日間から2週間ぐらい遅れてから、重症になる確率が高いですからその場でそうなるわけではありませんが。そうなってくると、大変なわけですから、この年齢層、感染している年齢層が変わらないように、対策をとる必要があるということでございます。

私の方からは以上でございます。

【危機管理監】

猪口先生、大曲先生ありがとうございました。

それでは他にご発言等なければ、本部長からお願いいたします。

【都知事】

皆様、ご苦労様です。

本日は猪口先生、そして大曲先生におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席をいただいております。感謝申し上げます。

先ほど第2回のモニタリング会議を行いました。

モニタリングの項目につきましては、専門家からの皆様方から報告をいただき、都としての対策を議論いたしましたところでございます。

専門家の皆さんからは、まず、先ほどの大曲先生からのご報告にもありましたように、感染状況に関しては、4段階のうち、最高レベルの4段階目、赤色に当たりますけれども、「感染が拡大していると思われる」との総括コメントいただいております。

また、医療提供体制につきましては、先ほどの猪口先生からのご説明がございましたように、4段階のうち3段階目、オレンジ色にあたる「体制強化が必要であると思われる」とのコメントいただいたところでございます。

さらに、感染症対策審議会の委員の方々からは、「都民、事業者の皆様への呼びかけは妥当」という御意見を頂戴したところです。

都の新型コロナウイルス感染症対策の基本的な方針につきましては、モニタリング会議での専門家の方々の分析に基づいて、感染の拡がりに対応しながら、検査・医療体制の強化や、都民や事業者の皆様への呼びかけ、要請など、多面的な対策を的確に講じていくことといたしております。

本日のモニタリング会議における専門家の皆様方のご意見を踏まえますと、現在の状況は、感染拡大について都民や事業者に警報を発し、より一層の注意喚起を行うべき状況でございます。

これに対して都としては、「積極的な検査の拡大による感染拡大の抑制」、「都内共通の対策に加え、地域の実情を踏まえた重点的・ピンポイント対策」、「年齢層や業態に応じたきめの細かい対応」これら3つの方向で取組を展開して参ります。

「積極的な検査の拡大による感染拡大の抑制」でございますが、まず、検査処理能力の向上、そして保健所の体制強化、積極的な検査の受診勧奨による、感染者の早期発見などがあります。

来週20日から、東京都健康安全研究センターに支援拠点を設置いたしまして、まずは、いち早く夜の街対策に取り組まれておられる新宿区を支援して、今後他の区市についても状況を踏まえて積極的に支援をしていくということでもあります。

2つ目の方向であります、「都内共通の対策に加え、地域の実情を踏まえた重点的・ピンポイント対策」としては、感染防止策を確実に実施しているお店の利用や、そして区市町村と共同での地域における感染症対策の推進を図っていくという中身になっております。

最後に、3つ目の方向であります、「年齢層、業態に応じたきめ細かい対応」といたしましては、重症化のリスクの高い高齢者等への対策の徹底や、年齢などに合わせた多様なツールによる広報を行うということでもあります。

これらの三つの方向に基づいて、「ウィズ コロナ」の時代にふさわしい対策の展開をして参ります。

この後、臨時記者会見を開きます。そして、モニタリング会議などの結果を踏まえて、都民・事業者の皆様に対して、感染拡大防止のための呼びかけを行って参ります。

なお、これらの呼びかけでございますが、法的根拠として特措法第24条第9項に基づく要請といたします。

各局におかれましては、今回のモニタリング分析における感染状況が最高レベルの4段階目となったことに危機感を共有したいと思います。そして、その意識の共有をした上で、速やかに施策の展開をしたいと思っておりますので、しっかり関わっていただきたいと思っております。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして第 34 回東京都新型コロナウイルス感染症対策本部会議を終了いたします。